

7月19日（土）

ボランティア観光ガイド「グリーターズ」による市内視察

メルボルン市民のボランティア観光ガイドである「グリーターズ」の案内により、歴史的建造物や100年以上の歴史を誇るショッピングアーケードなど市内視察を行った。

グリーターとは、「挨拶する人、迎える人」という意味で、ボランティアがガイドとしてではなく、友人として自分のまちを紹介するというコンセプトとなっている。

一行は2班に分かれ、メルボルン市の歴史的建造物等を徒歩で回った。メルボルンの名物である ترامにも乗る予定であったが、渋滞により ترامが遅れていたため、次の視察先であるメルボルン博物館まで歩いていくこととなった。

メルボルン博物館視察

メルボルン博物館は南半球最大の博物館であり、アボリジニセンター、子ども博物館、ギャラリー・オブ・ライフ、森のギャラリー、オーストラリアンギャラリー、IMAXシアター等に分かれている。ビクトリア州内の花や動植物等についても学習できるなど、教育関係設備も充実している。

メルボルン博物館のダンロップマネージャーにより、メルボルンの歴史が観覧できるショートツアー「メルボルン物語」を案内いただき、短い時間ではあったがメルボルンの歴史を学ぶことができた。



メルボルン博物館を視察

国立スポーツ博物館視察

メルボルン・クリケット・グラウンド内にある国立スポーツ博物館を視察した。

オーストラリアの国技であるオーストラリアン・フットボールやメルボルン・クリケット・グラウンドの歴史、シドニーオリンピックなど過去のオリンピックでのオーストラリア選手の活躍についても展示されており、スポーツが盛んな国オーストラリアのスポーツに対する熱い思いを感じるとともに、オーストラリアにおけるスポーツに関する歴史を知ることができた。

また、施設内には実際にオーストラリアン・フットボールを蹴ったり、ジャンプ力を測ったりするアトラクションもあり、子どもも楽しめる内容になっていた。

メルボルン・クリケット・クラブ施設視察

メルボルン・クリケット・グラウンド内にあるメルボルン・クリケット・クラブ（MCC）の会員専用施設を見学しながらクラブの概要について、アンダーソンMCCマネージャーから説明を受けた。

MCCは、1838年に設立された、オーストラリアのクリケットクラブの中でも最も古い歴史をもつ世界最大のスポーツクラブである。メンバー数は約10万人、会員になるための順番待ちが17万5,000人、15年待ちとのことであった。

MCCは去る5月に大阪・メルボルン姉妹都市提携30周年を記念し大阪市を訪問され、大阪滞在中は、大阪市役所への表敬訪問や、生涯スポーツであるクリケットの面白さを多くの人に知ってもらうため、初心者向けの講習会や模範試合を開催した。

施設の見学の後、MCC主催の昼食会が始まった。まず、ボブ・ロイド副会長から、去る5月の来阪は、クリケットを通じたすばらしい文化交流であったとのことのお礼が述べられた後、メルボルン・クリケット・グラウンドやMCCの歴史について説明があった。

次に平松市長から、「去る5月には大阪において、初心者及び指導者向けのクリケット講習会を開催していただいたが、5月に大阪に来られたメルボルン・クリケット・クラブの皆さん、お久しぶりです。その際、レセプションで、親しみやすくあたたかい人たちとの交流をもてたことを今でも思い出す。あたたかいまち、人、メルボルンとの絆を未来永劫に向かって広げていきたい。」との挨拶の後、ロイド副会長へのプレゼントと



して、5月に来阪された際、MCCの皆さんが大阪の子どもたちにクリケットの指導をした記事が掲載されている大阪日日新聞を手渡した。

引き続き多賀谷市会議長は、「午前中にスポーツ博物館を視察したが、オーストラリアにおけるスポーツ行政のすばらしさを感じた。オーストラリアの人々にとってスポーツは身近なものであり生活の一部として根付いている。日本では、土地が狭くスポーツを気軽にする環境整備が進まない。また、日本にはクラブチームという文化がない。」との感想を述べた。

昼食会の後、2時からオーストラリアン・フットボール・リーグの試合を観戦した。メルボルン・クリケット・グラウンドは10万人収容できるスタジアムであるが、対戦カードが「リッチモンド・タイガース vs エッセンドン・ボンバーズ」と両チームとも地元同士の対戦であったため、観客席はすでにたくさんの観客で埋まっており、両チームを応援する熱気で盛り上がっていた。

試合が始まると、ワインを飲み食事をしながら観戦する人、旗を大きく振り声援を送っている人など、観客それぞれが自分たちの楽しみ方でゲーム観戦をしており、オーストラリアの人たちのスポーツの楽しみ方、スポーツへの関わり方などを垣間見ることができた。



メルボルン・クリケット・グラウンド

メルボルン・ロータリークラブ代表表敬訪問

大阪ロータリークラブと姉妹クラブであるメルボルン・ロータリークラブを表敬訪問するため、クリス・ワン元会長宅を訪問した。

バレン会長から挨拶があり、現在大阪との間で行っているフューチャー・リーダーズ・エクスチェンジ・プログラムについて述べられた。このプログラムは、将来を担う両市の若者たちの交流事業として実施されており、現在大阪から4名の若者を迎え、この10月にはメルボルンから大阪へ4名の若者が派遣される予定である。

引き続き平松市長から、「16日に行われた例会には、残念ながら日程が合わず出席できなかったが、私からのメッセージを紹介していただき、また今日、お礼を申し上げるこのような機会を設けていただきありがとうございます。姉妹都市提携後30年経った今、ロータリークラブにおいて、フューチャー・リーダーズ・エクスチェンジ・プログラムとして将来を担う若い人たちを迎えていただき、交流を実施されているこ

とは大変重要なことであり、ひいては世界の平和に貢献するものでありすばらしいミッションである。」、多賀谷市会議長から「メルボルン滞在2日間でメルボルンの人たちのバイタリティ、あたたかさ、ボランティア精神などいろんなことを学ばせてもらった。メルボルン・ロータリークラブは、ボランティア精神がすばらしいと伺っている。フューチャー・リーダーズ・エクスチェンジ・プログラムとして、現在、日本の若い将来のリーダーがお世話になっているが、10月にメルボルンから若い人をお迎えする際には、我々としてどのようなお返しができるか、真剣に考えさせていただく。この2日間、古い友人のように扱っていただき感謝している。残り2日間でますます友情を深めることができるよう、形だけでなく頑張っていきたい。」との挨拶があった。



メルボルン・ロータリークラブの方々との懇談